

# ワクチン接種

## 慢性疾患をお持ちの方へ



糖尿病、喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの慢性疾患を持っている人は、予防可能な病気から身を守ることがより難しくなることがあります。病気にかかると、慢性疾患を持つ人は入院や死亡のリスクが高くなります。ワクチンで予防できる病気の中には、血糖値が急激に上昇したり、気道が炎症を起こし、肺炎を引き起こす原因になるものもあります。

ワクチン接種は、予防可能な病気からあなたを守る、安全で効果的、かつ簡単な手段であり、慢性疾患をお持ちの方には特に重要なものです。しかし、免疫機能がどれくらい影響を受けているかにより、回避すべきワクチンや、免疫力が高まるまで待つべきものもあります。

どのワクチンを接種する必要があるかは、医師にお尋ねください。

### どのワクチンを受ける必要がありますか？

どのワクチンがあなたやあなたの家族に推奨されているか、医師にお尋ねください。ここでは最も一般的なものをいくつか紹介しています：

- ◆ **インフルエンザワクチン:** 生後6ヶ月以上のすべての人に、最新のインフルエンザワクチン接種を受けることが推奨されています。65歳以上または18～64歳の人で臓器移植を受け、免疫抑制剤を服用している場合は、高用量のインフルエンザワクチンについて医師にお尋ねください。
- ◆ **新型コロナウイルスワクチン:** 改良型の新型コロナウイルスワクチンを少なくとも1回接種することが、生後6ヶ月以上のすべての人に推奨されています。改良型の新型コロナウイルスワクチンは、新型コロナウイルスワクチンの最終接種日から少なくとも2ヶ月経過してから受けてください。
- ◆ **肺炎球菌ワクチン:** 子供や大人に深刻な感染症を引き起こすことがある、複数の種類の肺炎球菌を予防します。小児用の4回接種を5歳までに済ませることが推奨されています。年上の子どもや成人は推奨されている通りに受けてください。
- ◆ **帯状疱疹ワクチン:** この2回接種ワクチンは、高齢者の帯状疱疹を予防し、最大限の予防効果を得るために、2～6ヶ月間隔をあけて行われます。過去に水ぼうそうにかかったことがある場合でも、50歳以上の方に推奨されています。1回接種のZosterワクチンをすでに受けている場合は、医師にお問い合わせください。



# ワクチン接種

## 慢性疾患をお持ちの方へ



- ◆ **Tdapワクチン:** このワクチンを1回打つことで破傷風、ジフテリア、百日咳を予防します。10年毎にブースター接種が必要になるかもしれません。
- ◆ **RSウイルスワクチン:** 75歳以上の人は、このワクチンを1回接種することでRSウイルス(respiratory syncytial virus)を予防します。60~74歳までの人や高齢者でRSウイルス感染症の重症化リスクのある人は、RSウイルスワクチンを1回接種することが推奨されています。詳細については医師にお尋ねください。
- ◆ **B型肝炎ワクチン:** 2回または3回に分けて接種するワクチンで、全ての人に推奨されていますが、60歳以上の方は、このワクチンを接種することについて医師にご相談ください。

### ワクチンを受けるにはどうすればいいですか？

- ◆ 医療機関または薬局に行く。
- ◆ ワクチンの追加接種の必要性について医師に尋ねる。  
かかりつけの医師がいない場合は、<http://publichealth.lacounty.gov/vaccines> にアクセスし、低価格または無料でサービスを提供しているワクチンクリニックのリストやワクチンに関する詳細情報をご覧ください。  
ほとんどのワクチンは同時に接種することができます！



### 公衆衛生局コールセンター

詳細情報は、公衆衛生コールセンターまでお問い合わせください。

**1-833-540-0473** (年中無休、受付は午前8時から午後8時まで)



Los Angeles County Department of Public Health

[ph.lacounty.gov/vaccines](http://ph.lacounty.gov/vaccines)

Vaccines - Chronic Diseases 8/23/24 (Japanese)



COUNTY OF LOS ANGELES  
**Public Health**